

第 2 回 気候変動にともなう防災・減災を考える会 要旨

日 時：平成 22 年 10 月 27 日 10:00～12:00

場 所：鳥取河川国道事務所 1 階会議室

参加者：別紙参照、随行者、事務局含め約 30 名

本会趣旨

・近年、全国的に大規模な水災害が頻繁に発生する中で、千代川流域においても、全国的な傾向と同様に、温暖化に伴う気候変動によると考えられる集中的な降雨、潮位の上昇傾向等が見られ、今後も流域に対する水災害リスクが上昇していくことが考えられている。

こういった背景を踏まえ、気候変動にともなう水災害リスクに対する適応策(ソフト的な取り組み)について、学識経験者、地元関係者、及び関係行政機関等で考えていくことを目的として本会を設立。

今後この会で、千代川沿川住民の水災害における自主防災意識(自助・共助)の向上を図り、官民一体となって「犠牲者ゼロ」に向けた取り組みを推進していく。

第 2 回会議 議事概要

- ・新委員の紹介
- ・前回会議の要旨、温暖化による水害リスクの変化について
- ・水害意識アンケート結果の分析、適応策、今後の進め方について

主な意見

(前回会議の要旨(主要洪水の降雨と水位の関係))

- ・近年の主要洪水が発生した時に、上流で堤防が決壊したことはないのか。過去の洪水でピーク前に被害が発生したか、どうか知りたい。
- ・平成 16 年の洪水で堤防高の 1m 近くまで水位が上昇し、避難するべきか、どうかで迷いが生じた。千代川は北風の時が流れが悪くなり、危ない。避難の際は、専門家が現地に出向いて状況を確認する必要がある。

(水害意識アンケート結果について)

- ・鳥取市の自主防災組織の組織率は 93.4%であり、町内会単位の組織率である。町内会がない地区は自主防災組織が設立されておらず、組織率にも含まれていない。
- ・6 割以上の人が自主防災組織に加入していることを認識していないとは、信じられない。
- ・役員以外の住民は、自主防災組織を認識していないのではないか。
- ・いろいろな人が防災に対して興味を持つことが大事である。回答者の少なかった 20～30 代の防災に対する意識を考えることが大切である。
- ・40～50 才以下の世代は、被災経験がないため、水害に対する認識が低い。
- ・ハザードマップは簡素でわかりやすいものを作らないと利用してもらえない。
- ・ハザードマップの想定浸水深は、地図上で色分けして示すより、数値を一覧表のようなもので示す方が分かりやすい。
- ・工夫すれば地区毎のマップが作成できる。市は地区の意見を聞いて、次の段階(第 2 段階)のマップを作成してはどうか。
- ・自分たちで作る防災マップは捨てられない。
- ・「自分の住んでいる場所がどうなるか、知りたい。」という段階に移っている。身近な情報を流すことが大事である。

- ・住民は水害時に避難場所が浸水するかどうか、わからないのではないか。洪水の避難場所がわかるように、目に見える看板が必要ではないか。
- ・身近に起きうる事故を想定した、我が身を自分で守るための訓練が必要である。訓練は継続することが大事である。今は助けてもらうことを前提にしているお年寄りが多い。
- ・郵便局の職員は平日地域にいたので、できることを協力したい。
- ・地域の企業と連携していけば、防災に対する取り組みが拡大すると思う。どう進めていくかが課題である。

(今後の進め方について)

- ・本会議で検討していく防災に関する情報や対策は、大小に係わらず、絶えず、徹底して住民に知らせていくことが大切だと思う。
- ・今後はモデル地区の選定をして、現在実施されているソフト対策の補完・充実、新規施策などを検討していき、事後の評価も行い継続的に取り組みを考えていく。

→ **今回会議での意見を踏まえ、次回は具体の適応策(ソフト的な取り組み)、行政と住民の役割分担、ロードマップ等について意見交換を行う。**

以上